

公表

事業所における自己評価統括表

○事業所名	児童発達支援センター にじのおと（放課後等デイサービス）			
○保護者評価実施期間	令和6年4月1日	～	令和7年3月31日	
○保護者評価有効回答数	対象者数	32家庭	回答者数	26家庭
			回収率	81%
○従業者評価実施期間	令和6年4月1日	～	令和7年3月31日	
○従業者評価有効回答数	対象者数	9名	回答者数	9名
			回収率	100%
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	困りごとを持っているお子様が利用して頂く事で、専門スタッフが成長や発達に応じて、集団・個別に療育（支援）や生活能力向上のために必要な学習を支援し、発達・自立促進の働きかけをしている。	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階や理解度に応じた適切なアセスメントの実施 小集団でのSST等の実施 個別支援計画の作成・目標達成について理解しやすい提示と環境設定 日々の生活の様子を家庭と連携し共有する。 	活動や生活の振り返りの中で気持ちを伝える体験の場、日々の生活や遊びの中で意欲的に取り組み、成功体験を積み重ねる事の出来る環境の場の提供。
2	3つの育みを大切にしている。「療育」「音育」「食育」を柱に感覚機能・身体機能・食事の自立や食べる事の大切さや楽しさを集団活動や、個別支援を実施しながら伝え、促進する。	<ul style="list-style-type: none"> セラピストが実施する機能訓練（ST/OT/MT） 食事に関する保護者からの相談・昼食時の見学等 課外活動や行事等での集団行動での達成感を味わえる支援。 	活動が充実している中での成功体験の積み重ねの機会を設ける。
3	指定障害児相談支援では、お子様の心身や環境、保護者の意向を勘案した利用計画案の作成、モニタリングや検証を行う。保育所等訪問支援ではお子様に対して対象児童以外の児童との集団生活への適応の為に専門的な支援と施設との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の個人懇談 連絡ノート 学校や、他の療育施設、学童との連携 	インクルージョンを意識した移行支援（後方支援） ※関係機関等との連携や家族支援を行い、すべての子どもの育ちのビジョンの内容を提供スタッフ全員が理解し、子どもや家庭の支援にあたっている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	自立支援協議会への参画	関係機関への働きかけを行っている途上。（回答待ち）	
2	保護者様向けの研修会の機会を増やす。	就労している保護者様が大半。土曜日は施設が稼働している為、場所や職員の調整が必要。	施設閉所後の開催や、事前にテーマについてアンケート等で希望を募る等。